

プレ・インターンシップ体験報告

所属：人間社会学部公共社会学科

業種：卸売業

期間：25年3月9日（土）、3月10日（日）・3月15（金）～3月17日（日）

プレ・インターンシップに行くまでは、「社会に出て働く」ということについて理解しておらず、あまり考えることもしなかった。そして、自分がプレ・インターンシップに行くということになり、そのようなことについて自分なりに考えるきっかけができた。自分の興味のある業界でプレ・インターンシップを体験できるものの、行く前は何をしたらいいのか、どんなことをしているのか、きつい仕事ではないのか等と期待よりも不安のほうが多くあった。

そして、プレ・インターンシップで服飾の業界を体験した。時間が少なかったということもあり、自分自身がきついと思うことなく、全体的に楽しめた。それだけではなく、他の店員がどのようなことをしているか等をよく注意して見ることを心がけた。そういったなかで他の店員の気遣いや言葉遣いは普段の生活に活かせるものが多かった。

様々な人が行き来するお店で、年齢もそれぞれ違った方と話しをするときに注意しなければならないことをプレ・インターンシップとして働きながら少しは理解することができた。もちろん簡単な仕事ではないということはプレ・インターンシップに行く前からわかってはいたが、大変だなと働いて感じることもいくつかあった。「プレ・インターンシップとして働いている」ということもあってどこまでの仕事をやっていいのかという判断が難しかった。積極性を出していくことは重要であるが、バイトでも社員でもないわけであるから、迷惑をかけないようにすることの方を重視した。新しいことに多く挑戦していくことより、教えられたことを一つずつ確実なものにしていくというようなプレ・インターンシップ活動となった。

期間と時間があまりなかったため、この業界のすべてを知ることはできなかったが、自分の憧れの一つであるショップ店員という職業について少しは知ることができ、自分の将来につなぐことのできるとても重要な経験になった。「社会に出て働く」ことを何も知らなかった状態から前に進むことができたこの経験と、気持ちや心構えを自分の将来を考える上で重要な要素にしていこうと考えた。自分の理想としている将来に少しでも近づけるように、日頃からアンテナを張り、様々な情報を自分のものにして行きたいと、このプレ・インターンシップを通して感じることもできた。

